

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 1階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13番3号		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年7月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様、スタッフが楽しく仕事ができる様を目標に掲げ、笑顔の絶えない家作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだり入居者様とスタッフがひとつの家族のような関係作りを大切にしています。また、医療機関と訪問看護師との連携により、日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園やボランティアとの交流、地域行事への参加などを通して、地域との繋がりを大切にし入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家作りを目指していきたいと思ひます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年7月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほほえみ」は、近隣に遊歩道や公園、幼稚園、ほど近くに商業施設があり生活環境に恵まれた静かな住宅地に位置する2ユニットの事業所である。代表者はサービスの特徴として「利用者が生活の主体者」である事を重要事項説明書に明示し、2名の管理者がそれぞれのユニットを統括している。新型コロナウイルス感染症による自粛生活により控えている事は多々あるが、地域とのつきあいは良好で住民からお裾分けや散歩途中に気軽に立ち寄ってくれている。幼稚園との相互交流を始め認知症キッズサポーター養成講座では小学生へ寸劇等を行い理解を深めてもらうなど、事業所機能を地域へ還元している。夏祭りや敬老会、クリスマスなどの行事には民謡や吹奏楽、スコップ三味線のボランティアを招き、また食の支援では外食や出張出前寿司、新蕎麦打ち、季節の行事食などバラエティ豊かに提供されている。個別外出や地の利を活かした様々な場所への外出支援も特徴である。開設時よりターミナルケアにも取り組み利用者のこれまでの生を尊びつつ最期を家族と共に見送る大切な支援ともなっている。家族からの評価が高く、事業所職員への労いの声が寄せられている。「5つの基本ケアの徹底」5項目を独自に作り上げ身体拘束適正化に係る指針に示すなど、人権を守る揺るぎない姿勢が感じられる。理念に則り、その人らしい自由な暮らしを職員が丸となって支え家庭的な温もりある暮らしを作り上げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。ケアプラン作成時にも、ケア理念に沿っているか確認し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ基本理念を標榜し、それらを根幹とする事業所独自のケア理念を掲げている。理念に則ったサービスが提供されているか、利用者の状態を踏まえつつ確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でのボランティアとの交流、近隣幼稚園との交流を図っている。地域行事等にも参加。	地域フェスティバルやRUN伴に参加している。小学校での認知症理解に向けた職員による寸劇や幼稚園との相互交流を行っている。新蕎麦打ちや民謡・踊り・吹奏楽のボランティアが訪れている。地域住民から野菜などの差し入れや散歩途中に立ち寄られる方がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、参加のもとにホームの近況報告や情報交換を行い、そこで出た意見、情報をミーティングを通し、スタッフに伝えサービス向上活かしている。	今年3月と5月は事業所職員のみで開催し、新型コロナウイルス感染症発生時の対応マニュアルや面会等について協議を行っている。この1年では看取り支援、災害時の協力体制等について話し合っている。家族への議事録の送付を適宜進めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時や運営推進会議等を通して、入居者様の情報を伝えながら、協力関係を築いている。	年1回の市の集団指導では、加算新設での注意点や実地指導で確認された問題点などの情報を得ている。苫小牧市GH連絡会に参加し、勉強会や情報交換を行っている。市の委託を受け認知症サポーター養成講座に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、日々の介護を通しミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね、玄関の施錠、行動抑制等を含め、身体拘束に関し正しく理解できるように取り組んでいる。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、3か月に1度「身体拘束廃止推進委員会」を開催している。これらに係る内部研修を年2回実施している。職員で話し合い作り上げた「5つの基本ケアの徹底」5項目を指針に明示しており、意識化が図られている。リスクに関する家族への伝達はその都度行っている。夜間のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し一人ひとりのケアを確認しながら、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加を考えているが、なかなか機会がない。今後、学ぶ機会を設けて、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのコミュニケーションを大切に、意見や要望に耳を傾けている。面会簿に意見等を記入できるように工夫している。また、意見、要望はホーム内で共有し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	利用者から買い物や食べたいものなどの希望が出た場合は、タイミングを見て支援している。家族からは気軽に電話やメールで本人にしてほしい要望が寄せられており、その都度対応している。事業所便りの他、毎月個別に利用者の様子を手紙で伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている。	年1回代表者が職員との個別面談を実施し、就業に関する事などを話し合い調整している。職員からの物品購入等の要望への対応は速やかで、また希望休制度を設け働きやすい環境を整えている。同法人他事業所間やユニット間の異動を控え利用者や職員の馴染みの関係に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為に休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。月1回のミーティングを利用し、ホーム内での研修も随時行っている。また、資格等の研修も参加しやすいよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や行事等を通して、同業者との交流を図っている。情報交換をすることで、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有を行い、出来るだけ不安の解消、要望に近づける様、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支えるという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、友人関係が途切れない様に、外出支援や電話、面会等の支援に努めている。	家族の記念日に家族と一緒に外出に出かけたり、誕生日や年末、庭の桜が見ごろになる時期に以前住んでいた家へ行き家族と共に過ごす利用者がいる。馴染みの食堂へ職員とマンツーマンで外出に出かけたり、自室で携帯電話を使用し家族へ連絡している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りを含めて支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数名の方が、契約が終了していても訪ねて来てくれる、関係は続いている。また、相談がある時は、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、本人本位で検討するよう努めている。	利用者の話しや様子から職員が意向の聞き取りをしたり、誘導や働きかけをするなどして「本人がどうか」の視点で確認している。怒りっぽくなった・部屋とホール移動が頻回など、行動がいつもと違う状況を見逃さず一人ひとりに関心を払い、想いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、本人やご家族様から頂いた情報を個別にまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成している。	毎月利用者カンファレンスを実施し、課題や気づきを話し合っている。家族や医療関係者のアドバイスも反映させ本人の望ましい生活像を示し、生活援助計画を立てている。現状に即した計画と支援により状態が安定し、自立に向かった事例がある。アセスメント要約表は変化の都度加筆し、定期更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有し、モニタリングをしながら、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々々のニーズに合わせ、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近隣幼稚園との交流などを通して、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。	内科、歯科、皮膚科の往診と訪問看護の態勢を整えている。その他診療科目は職員が通院支援を行い、状況に応じて家族も対応している。医療内容は「受診記録」に時系列で個別に記録している。職員の口腔ケアにより、歯茎の腫れが治るなど効果が見られている。	

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。	「入居者の急病や怪我、重度化し看取りの必要が生じた場合などの対応における指針」を契約時に説明し、状況発生時に関係者が医師の説明等を受け「看取り介護についての同意書」を交わしている。家族が居室に宿泊し最期を見送ることができるサポート態勢がある。開設時より15名のターミナル支援に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様、努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練も、今後行っていく。	年2回日中・夜間を想定した火災避難訓練を実施し、昨年7月は消防署の協力を得ている。近隣幼稚園から一時避難場所として協力の申し出を得ている。胆振東部地震の際は職員が速やかに参集した。災害備蓄品の見直しを行い補充保管に努めている。	自然災害発生時における対策や訓練について、更に検討を行う意向であるので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて、声かけをする時の、声の大きさや言葉使いに注意し、その時の状況に合わせた対応をしている。	個人記録は事務所で適正に保管している。職員の気になる言葉が聞こえた場合は都度適切に是正している。接遇の研修後は職員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服等は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて、時には外食や出前などで、食事が楽しみになる様支援しているまた、本人の負担にならない様に、配膳や片付けと一緒にやっている。	業者から献立と食材が届くが、月に数回は内容を変更し利用者の好みの献立にしたり外食をしている。季節行事の食事や敬老会、夏祭りなど特別な会食の機会も多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、キザミ食やトロミをつけるなどの支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。必要に応じて、リハビリハantzの使用や夜間のポータブルトイレの支援もやっている。	排泄・水分チェック表に利用者ごとの記録を記入して確認し、排便の滞った場合は座薬など個別の対応で改善している。利用開始後、おむつからパンツへ、また自らトイレに行けるようになった利用者がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。	段差のない浴室にシャワーチェアや手すりを使い、安全な環境に配慮し、曜日を固定せず週2~3回、好みの入浴剤と気持ちのよい湯加減で利用者の希望を尊重した入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、食後の休憩ができるよう支援している。また、夜間安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせて就寝ケアをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ピアノを弾いたりぬり絵をしたり楽しみがもてるよう支援している。また、嗜好品の購入など、気分転換等ができるよう支援をしている。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って、日常の買い物や外食等の支援をしている。また、季節に合わせて、お花見や紅葉狩りなどの外出支援もしている。	日々の散歩は主に事業所周辺がコースである。個別の散歩では職員が同行し本人のペースに合わせて対応している。外出の機会も多く、冬季間でもショッピングセンターで歩行し、筋力が低下しないよう支援をしている。今年度も情勢を鑑みつつ外出支援に取り組む予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、買い物に同行し、お金を使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者が集まりやすい様に花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している。	清潔で家庭的な広いリビングのソファに腰掛け、ゆったりと落ち着いて過ごしている。行事の写真を玄関や壁に掲示し、カラオケ、ボーリング、風船パレードなど、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。利用者が寒がらないよう温湿度の管理を徹底し、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真を飾るなどしている。転倒のリスクを考え動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。	入口に名前を張っているが、好みの暖簾をかけて自分の部屋と認識しやすくしている。ベッド、タンス、仏壇、テレビ等を配置し、家族の写真や植木鉢、推理小説、空気清浄機、人形などがあり、安心して過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置し、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者が自立して生活を送れるように支援している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 2階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13番3号		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年7月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=0193600087-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様、スタッフが楽しく仕事ができる様を目標に掲げ、笑顔の絶えない家作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだり入居者様とスタッフがひとつの家族のような関係作りを大切にしています。また、医療機関と訪問看護師との連携により、日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園やボランティアとの交流、地域行事への参加などを通して、地域との繋がりを大切にし入居者様やご家族様に安心・信頼して頂ける家作りを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ全員で日々理念を意識し共有しながら、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でのボランティアとの交流、近隣幼稚園との交流を図っている。地域行事等にも参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、参加のもとにホームの近況報告や情報交換を行い、そこで出た意見、情報をミーティングを通し、スタッフに伝えサービス向上活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時や運営推進会議等を通して、入居者様の情報を伝えながら、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、日々の介護を通しミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね、玄関の施錠、行動抑制等を含め、身体拘束に関し正しく理解できるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し一人ひとりのケアを確認しながら、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加を考えているが、なかなか機会がない。今後、学ぶ機会を設けて、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望に耳を傾けている。面会簿に意見等を記入できるように工夫している。また、意見、要望はホーム内で共有し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為に休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。月1回のミーティングを利用し、ホーム内での研修も随時行っている。また、資格等の研修も参加しやすいよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や行事等を通して、同業者との交流を図っている。情報交換をすることで、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有を行い、出来るだけ不安の解消、要望に近づける様、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。本人が出来ない所を、支援する。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支えるという関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの医療機関受診の支援や、ご近居の友達の面会、電話等の支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極めながら、見守りをしたり、協力して出来る事をお願いしたり、1人ひとりの性格を把握し、支えあえる支援に努めている。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数名の方が、契約が終了していても訪ねて来てくれる、関係は続いている。また、相談がある時は、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、本人本位で検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、本人やご家族様から頂いた情報を個別にまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有し、モニタリングをしながら、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々々のニーズに合わせて、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近隣幼稚園との交流などを通して、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様、努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練も、今後行っていく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りの状況を見ながら、個々に合わせた声かけやタイミング、声の大きさ等に注意し、丁寧な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添った支援が出来るよう、1人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服等は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて、時には外食や出前などで、食事が楽しみになる様支援しているまた、本人の負担にならない様に、配膳や片付けを一緒にやっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、キザミ食やトロミをつけるなどの支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。必要に応じて、リハビリハンツの使用や夜間のポータブルトイレの支援も行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、夜間安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせて就寝ケアをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ピアノを弾いたりぬり絵をしたり楽しみがもてるよう支援している。また、嗜好品の購入など、気分転換等ができるよう支援をしている。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って、日常の買い物や外食等の支援をしている。また、季節に合わせて、お花見や紅葉狩りなどの外出支援もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、買い物に同行し、お金を使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者様が集まりやすい様に花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している。ご家族様の持ち込みで、ひな人形など季節の物を飾らせていただくこともある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真等を飾るなどしている。転倒のリスクを考え動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置し、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームほほえみ

作成日：令和 2年 7月 28日

市町村受理日：令和 2年 7月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害発生における対策や訓練について、更に検討を行う意向であるので、その取り組みに期待したい。	自然災害時の対策や2階への搬送訓練を行う。	自然災害時の対策や、2階への搬送訓練の計画を立て実施していく。	1年～
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。